以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。
ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

大うつ病性障害・双極性障害治療ガイドライン

日本うつ病学会 気分障害の治療ガイドライン作成委員会 (委員長: 野村総一郎 防衛医科大学校病院)
医学書院、2013 年 5 月 15 日 第 1 版発行

■1 加味帰脾湯

疾患:

うつ病

引用など:

中田輝夫. 軽うつ病 30 例に対する加味帰脾湯投与の効果. *日本東洋医学雑誌* 1997: 48: 205-10. J-stage, CiNii

有効性に関する記載ないしその要約:

軽症うつ病の治療の選択 iii. その他の療法の項に、下記の記載がある。
『加味帰脾湯等の漢方薬がうつ病に対して有効であったという報告 (中田輝夫, 1997) も散見されるが、エビデンス・レベルは高くない。』